

国  
語

二〇二〇年度

東京純心女子高等学校入学試験問題

(一般入学試験Ⅰ)

特進プログラム&特待生選抜を兼ねる

- 一. 解答は解答用紙に記入せよ。
- 二. 記述問題で字数制限のある場合は、句読点・記号も一字として数えよ。
- 三. 問題文は上下二段になっている。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

離婚して実家に戻った恵美は、地元のパン工場で配達の仕事しながら、母寧子と二人で暮らしている。恵美はこれまで、母の決めたことに従えば間違いないと信じて人生の大半を過ごしてきたが、その母が認知症を患ってしまった。そこで母の介護をホームヘルパー（依田）に依頼し、母も恵美も依田に信頼を寄せていた。しかし最近職場の同僚から、依田の属する事業所（春ひなたサービス）についてよくない噂を耳にする。

「次第に生ぬるくなる風に身震いする。空を仰げば、灰色の雲が猛スピードで流れていた。恵美は荷台にトレイを戻し、運転席に乗り込んだ。今夏二度目の台風上陸が迫っていた。雨が降り始める前に配達を終えたかった。

雨に備えてか、車の交通量が多い。頭の中に地図を浮かべ、近道を検索する。生まれ育った街だ。土地勘はある。恵美は裏道を駆使し、残りの三軒を大急ぎで回った。本日最後の配達先は、森林公園の近くに建つ産婦人科だった。このあたりでは一番人気の産院らしい。ここで分娩するにはかなり早くから予約を入れなければならないのだと、前にパートの主婦から聞いたことがあった。

①産院は、消毒液と砂糖菓子を混ぜたような匂いがする。遠く、かすかに泣き声が聞こえた。調理師にトレイを引き渡し、と、ポケットの中で携帯電話が震えた。出ようかどうか迷ったが、あとはサインをもらうだけだと無視を決め込む。来週ぶんの注文について軽く打ち合わせたのち、外に出た。駐

車場に戻る道すがら、携帯電話がふたたび着信を知らせた。

発信者を確認すると、依田、と表示されていた。緊急時に備えて連絡先は交換してあったが、かかってくるのは初めてだ。「暑さが一気に遠のいた。

「もしもし?」  
「お仕事中に申し訳ありません。ヘルパーの依田です」  
「いえ、大丈夫です。あの、母になにかありましたか?」  
「実はですね、寧子さん、買いものに行く途中にちょっと怪我をされて」  
「怪我?」

②脳の奥のほうでなにかが蠢く気配がした。まだそれを直視してはいけない。小さく息を吸い、恵美は懸命に平静さを保つ。大きな段ボール箱を抱えた医療品の卸業者が、恵美の横を迷惑そうな顔で通り過ぎていく。自分が道の真ん中に立ち尽くしていたことに気づき、恵美は慌てて車に戻った。

「道の側溝に足を取られて、転んでしまわれたんです。歩き慣れた道だからと、私も完全に油断していました。申し訳ありません」

「あの、それで怪我の具合は?」  
「すねと膝に擦り傷を負われました。寧子さんが病院に行きたいと仰いましたので、外科にお連れして、化膿止めを処方されました。お医者さんの話では傷は浅く、一週間もすれば治るだろうとのこと。事業所とケアマネージャーのほうには、私のほうから先ほど報告致しました」  
「そう、ですか。お手数をおかけしました」

恵美は運転席にもたれた。そのまま腕だけを伸ばす姿勢で鍵を回し、エン

ジンをかける。エアコンの送風口からは埃臭い空気が、スピーカーからはラジオの音声が、同時に流れてきた。ふいに依田が言葉を発するも、それらのせいで聞き取れず、恵美は風力と音量のつまみを左方向に捻った。

「すみません、もう一回言ってもらえますか？」

「いえ、あの、今回の件は私の不注意が招いたことではあるんですが……」

依田の喋り方はA煮え切らなかつた。恵美は急かしたい気持ちを頬の裏側で噛み潰し、続きを待った。

「病院から帰ってきてからというもの、寧子さん、私と口を利いてくださらないんです。溝に足を滑らせたとき、私、とつさに手を伸ばしたんですけど間に合わなくて、そうしたら寧子さん、どうしてなのか私が突き落とされたように思い込んでしまわれて……。でも、そんなことは決してないんです」

背を丸め、杖をついてゆっくり歩く寧子の背を、依田の手が強く突く。瘦せた老婆の身体はたやすく傾き、片方の足が溝に落ちる。その拍子にすねが溝の縁に擦れ、皮膚に赤い血が滲んだ。あるときから急に怪我が増えたという山崎の母の話が、春ひなたサービスに所属しているらしいホームヘルパーの悪評が、頭の中に渦巻く。しかし、誰の顔もよく見えないのはなぜだろう。

■大粒の水滴がぼたりと音を立て、フロントガラスに落ちた。降ってきたと思ふ間もなく、車は雨に取り囲まれた。

「本当に、私はなにもしていなくて、でも、私の言うことなんて、きつと信じられないですよね」

「依田さん」

「私はただのホームヘルパーで、寧子さんは恵美さんのお母さまですから、当然です」

「依田さん、私は」

「③覚悟はできています。短いあいだでしたが、大変お世話になりました」

恵美が応えられずにいると、もう一度謝罪の言葉が繰り返され、そして電話は切れた。不通音が一定のリズムで鼓膜を打つ。恵美は力なく携帯電話を閉じ、窓の外に目を遣った。■森林公園の木々が傾くように揺れている。雨の飛沫であたりは白く煙っていた。視界の端でビニール袋が大きく翻り、勢いよく宙を舞った。

部屋の明かりも点けずにパソコンを立ち上げ、モニターの光に顔を浸すような姿勢でキーボードを打つ。ホームヘルパー、怪我、交代。たつた三語を入力しただけで、数万ものページが検索結果に現れた。④恵美は息を呑んでそれらを読み進めていく。介護サービスにおけるトラブルはB枚挙に遑がなかつた。ホームヘルパーに家の中のを壊されたり、金銭を盗まれたり、明らかに犯罪だという件も多い。

寧子は今、自分の部屋で眠っている。そつと階段を上がったから、恵美が帰ってきたことにも気づいていないだろう。寧子の左足のすねと右足の膝には、真つ白なガーゼが貼られていた。血はもう止まった様子で、本当に軽傷だったらしい。昔から、寧子は医者に全幅の信頼を置いていた。恵美や佐知子が微熱でも出せば、すぐさま病院に連れて行った。

一際強い風が窓を叩く。台風は威力を増していた。痙攣するように窓ガラ

スは震え、雨の屋根を打つ音はやかましい。雨戸を閉めなくてはと思いがながらも、恵美はモニターから目が離せなかった。インターネットを巡るうちに、いつしかホームヘルパーが集う匿名掲示板に辿り着いていた。規則だからと出してもらったお茶を断ったら、次の日から利用者が口を利いてくれなくなった、と落ち込む人がいて、リハビリを嫌がる利用者から虐待だと罵られた、と腹を立てている人がいる。まあ認知症患者は被害妄想が強いからね、となにかを諦めたような書き込みが、恵美の網膜に刺さった。

ああ、と呻き声が漏れた。気づいてはいた。分かっていたのだ。長らく自分の進むべき道を照らし続けた光は、急速に、確実に、衰えつつある。だからその代わりに、インターネット上に散らばる星をかき集めた。⑤今の恵美が頼れるのはその星明かりだけだった。①

ポータルサイトのトップページに戻った。春ひなたサービス、と検索バーに打ち込み、評判、噂、口コミといった単語で結果を絞り込む。しかし、所詮は地方にある小さな訪問介護事業所だ。求めているような情報は出てこない。恵美はついに依田の姓名を入力した。力を込めてエンターキーを押す。ヒットした、と思ったら、それは同姓同名の県議会議員だった。

⑥誰か、依田さんに五つ星をつけてよ。

自分のほかにも依田を認めている人がいれば、安心して続行を望める。依田を信じることができる。お願い、どうか私に星をください、と恵美は祈るように検索を続けた。そのうちに、誰に誰を認めてもらいたいのか、よく分からなくなっていく。肯定されたい、褒め言葉しかいらぬ。無数の声がこ

だます。私の言うことなんて信じられませんよね、との弱々しい依田の吐き、たまたま自分の店の口コミを見つけてしまったという渡の言葉が、その中に溶けているのを感じた。

恵美は両肘を机につき、頭を両手で抱えて項垂れた。無性に悲しかった。涙がこぼれないよう、下唇を噛みしめる。と、指先に柔らかいものが触れ、顔を起こした。②

ゆっくりとそれを引き抜き、手のひらに載せる。シフォン生地で作られたワインレッドの花と、小さなパール。数ヶ月前、暑くなり始めたところに購入したものだ。本当は、とても気に入っていた。五分とかわからず買いたくきたのは、これに一目惚れしたからだ。誰かに趣味が悪いと笑われないかな。安だったが、実際は、着道楽の寧子すら気がつかず、見つけてくれたのは、一人だけ――。

寧子と会うと元気が出るのだとその人は言い、寧子がボタンを留められれば、それだけで大喜びした。あの弾けんばかりの笑顔が嘘だったとは、とても思えない。寧子が口ずさんでいた歌のタイトルまでが残されたメモ、恵美が昼飯時に立ち寄れば、おかえりなさいと出迎えてくれた。③

一階で電話が鳴った。ケアマネージャーだった。本日の件ですが、と落ちて着き払った口調で切り出した彼女は、まず初めに怪我に至った状況について確認し、次に診療代のことを話した。恵美はそれを焦れたい気持ちで聞いた。

「それから、ヘルパーの依田さんのことなんですが」

「はい」

「依田さんの報告によると、寧子さんのご信頼をだいぶ損ねてしまったそう  
で……。どうですかね、今後も担当させていただくというのは、やはり難し  
いでしょうか？」

「あの、私が帰ったときには母は眠っていて、まだ話せていないんですけど」  
⑦ 手の上の花と珠を見つめた。随分長いあいだ、自分を照らしてくれる光  
ばかり求めていた。しかし、暗闇を進む方法はほかにもある。

「母も今は混乱しているかもしれませんが、本当によくしてくれれば、依田  
さんのことは非常に信頼していました。もちろん私も同じです。だから、今  
回のことと交代というのは、考えていないです」

そうですか、と応えたケアマネージャーの声は、かかってくるときよりも  
ずっと高く、活き活きとしていた。通話を終え、恵美はパソコンをシャツ  
ダウンした。胸に温かいものが広がっていた。④

縁側に出て、一階の雨戸を閉めた。軒はあるものの、瞬く間にずぶ濡れに  
なった。Tシャツが身体に貼りつく。だが、不快ではなかった。もう一方の  
雨戸を引き出しながら、ほかの人は知らないけれど、私はあなたの店が好き  
だと、落ち着くのだと、台風が苦手なあの人に伝えようと思った。⑤

(奥田亜希子『五つ星をつけてよ』より。なお、本文には省略等がある。)

\*1 山崎……恵美の同僚。春ひなたサービスの噂を恵美に伝えた。

\*2 渡……恵美がひそかに好意を抱いている、コーヒー店の店主。前回恵美が仕事  
でパンを配達した際、インターネットのロコミに自分の店に対する批判の言  
葉を見つけて落ち込んでいた。

\*3 シフォン生地で作られた小さなパール……何事もすぐには決められない恵  
美が、珍しく即決し購入した髪ゴム。依田はそれをほめてくれていた。

\*4 着道楽……着るものにぜいたくをして楽しむ人。

\*5 手の上の花と珠……\*3の髪ゴムのこと。

\*6 台風が苦手なあの人……渡のこと。

問一 波線A「煮え切らなかった」・B「枚拳に違がなかった」の意味として  
適当なものを、次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答え  
よ。

A 煮え切らなかった

ア はつきりしなかった      イ はらだたしかった

ウ かたくなるしかった      エ ゆるぎなかった

B 枚拳に違がなかった

ア 探すのに時間がかかった      イ 数えきれないほど多かった

ウ 次々と連続して起こった      エ さまざまな種類があった

問二 傍線①「産院はく匂いがする」とあるが、この中で使われている表現技法として適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法 エ 倒置法

問三 傍線②「脳の奥のほうでなにかが蠢く気配がした」とあるが、このときの恵美の頭によぎった思いとして適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア これから起こることへの期待 イ ヘルパーの依田への疑惑  
ウ 今後の母の介護に対する不安 エ 事態に対処しようとする気力

問四 傍線③「覚悟はできています」とあるが、誰のどのような覚悟か。解答欄に合うように答えよ。

【 】という覚悟。

問五 傍線④「恵美は息を吞んでそれらを読み進めていく」とあるが、このときの恵美の様子として適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 部屋で休んでいる寧子に気づかれないように、膨大な記事の一つ一つにこっそり目を通してしている様子。

イ 次々に現れる情報に興味がわき、次にどのような話題が出てくるのかと期待しながら記事を読んでいく様子。

ウ 一気に出てきたたくさん事例に圧倒され、この中から必要な情報を探さなければならぬことにうんざりしている様子。

エ あまりにも多くのページがあることに驚きつつも、自分が求める情報を得ようと緊張感をもって検索している様子。

問六 傍線⑤「今の恵美が頼れるのはその星明りだけだった」とあるが、このときの恵美の様子を説明した次の文の空欄に合うように、それぞれ指定の字数で答えよ。その際、【1】・【3】は本文中から探し、【2】は自分で考えて答えよ。

恵美はこれまでずっと頼ってきた【1】一字【】の衰えを受け入れざるを得なくなり、これから自分ほどのように判断をしなければよいのか【2】二字【】にかられて【3】八字【】の評価に頼ろうとしている。

問七 傍線⑥「誰か、依田さんに五つ星をつけてよ」とあるが、この時の恵美の心情を説明したものととして適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 依田を信じる自分の判断にあまり自信が持てないため、他の人にも同意してほしい、肯定してほしいと切実に願っている。

イ 自分も母も信頼している依田の良さを多くの人に認めてもらい、自信を失っている依田を励ましたいと思っている。

ウ 評判の悪い依田がかわいそうになり、世話になった依田の身を守るために褒める言葉を必死で求めている。

エ 誰からも注目されない依田の長所を見抜く自分の眼力の確かさを、多くの人に知ってほしいと望んでいる。

問八 傍線⑦「手の上の花と珠を見つめたくほかにもある」とあるが、この時、恵美の思いはどのように変化したと考えられるか。次の文の空欄に合うように指定の字数で説明せよ。

これまでは何事も他人の判断をあてにしてきたが、【 1 二十字以内】を思い出し、人の意見に頼るのでなく【 2 十字以内】を信じて判断してみようと思えるようになった。

問九 次の一文は本文中のどこに入るか。最も適当な箇所を【 1 】～【 5 】のうちから選び、記号で答えよ。

自分の手で明かりを灯せたような手応えがあった。

問十 太線【 1 】～【 4 】の表現を説明したものととして適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 太線【 1 】では、堅実に日々の仕事と母の介護をこなしている恵美に、これから面倒な問題が降りかかるであろうことが臨場感を伴って暗示されている。

イ 太線【 2 】では、代わり映えのしない日常生活に不満を感じていた恵美に大きな変化がおとずれ、突然意欲に満ちていく様子が印象的に表現されている。

ウ 太線【 3 】では、事故の様子がはっきりわからず、様々な人の意見が思い浮かぶが、なんとか対処していこうと意気込む恵美の様子が象徴的に描かれている。

エ 太線【 4 】では、一方的に電話で母の怪我を伝えられ、依田への怒りと不信感が急激に大きくなっていく恵美の様子が、ダイナミックに描写されている。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「①腑はらに落ちる」ということと、「理解した」ということは別のことである。

「腑に落ちる」というのは知的な経験というよりも、むしろものごとの条理が「見えたような気がした」という一種身体的な経験である。(中略)

<sup>\*1</sup> レヴィナスやラカンのようなスケールの思想家の考えていることは長い船体を持つ船に似ている。まず船首が見えて、それが視野を通過し、ずいぶん経ってからようやく船尾が見えてくるが、そのときはもう船首は視野の外なのだ。

巨大なスケールの思想については、私たち凡人は決して「一望俯瞰\*2 ぶんかん」に語ることができない。そこにはどうしても「時間」という要素が必要になる。

長い時間をかけて思考の歷程をたどるといふ忍耐強い作業が必要になる。読み始めたときにはその意味を知らなかった概念が血肉化され、それまでの常識が放棄されてゆくという自己変容のプロセスを経験しなければならぬ。

英米系の学術論文では、まず「序論\*3 じよろん」において「全体の構成」が予示され、それから整然と論証を進めるといふフォーマットが決まっている。(中略)

たぶん、ほとんどの学術論文は英米式に、中核的な知的統御にA~~~~~フクすべきものであつて、そうでない場合は、書き手の知力が足りないと判じてもよろしいのであろう。

①、世の中には「②そういうふう」に「は書けない主題もまれに存在する。レヴィナスやラカンについて論じる場合がそうである。というのは、

③このようなスケールの思想家を相手にしていると、議論の出発点において

「私は」と語っている論述の主体が、議論が進行するにつれて次第に変容を遂げ、議論の終点に至ると、書き始めたときは「別人」になってしまつていうことが起こるからである。②、論述の主体自身のB~~~~~ヘンボウ抜きに

は、先へ進めないという事実のうちに、これらの偉大な思想家の「偉大性」は存するとも言えるのである。

私が先ほど「時間」という要素を強調したのは、そのことを申し上げたいからである。

偉大な書物が偉大であるのは、それが私たちにC~~~~~ジュンタクな学術情報を提供し、私たちを知的に富裕化してくれるからではない。そうではなくて、彼らの書物を読む経験は② 私たちを一時的に混沌のうちに導く。しかし、その自失や眩惑げんわくを経験させることこそが、それらの書物の真に教育的な力なのである。(中略)

私はレヴィナスについてはかなり長期にわたって集中的な読書をしてきたが、いまだにレヴィナスが「ほんとうは何を言いたいのか」よく分からない。ラカンについては、レヴィナスよりさらに何が言いたいのか分からない。(中略)

「私には理解できないこと」がある。それが一つだけなら手の施しようがない。しかし、「同じ種類の理解できないこと」が二つあると話は違ってくる。そこに共通する「分からなさ」が読解の手がかりを提供してくれるからである。



絡からまった結び目を解く場合と同じように、難解な思想に取り組むときは、どこか一カ所でも解けるところを見つけて、そこからほぐしてゆく。「あ、ここからならほどけそうだ」という感じを私は先ほど「腑に落ちる」という表現にDタクたたくしたのである。その先がどうなるか、それはまだ分からない。次の結び目でまた立ち往生するかも知れないし、もう少しほぐれ続けてゆくかも知れない。

④私の読みは「ゴルディオスの結び目」を一刀両断にするような読み方とはずいぶん違う。

「ゴルディオスの結び目」というのは、古代フリギア王ゴルディオスが作った複雑怪異な結び目で、それを解いた者はアジアの覇者になるだろうという予言とともに遺された。誰も解けなかったその結び目をアレキサンダー大王たはばつさりとその剣で切り離し、予言通りアジアの覇者となった。難解なる思想を解説するときに、多くの人は「アレキサンダー大王の剣」を持ち出そうとする。(中略)

たしかに、そのような「アレキサンダーの剣」的な理路は単純にして明快だ。しかし、そのような「理解」から私たちが得るものと失うものどちらが多いか、これは吟味して見る必要があると私は思う。

「話を簡単にする」読みはしばしば「縮減する読み」たらざるを得ない。(中略) たしかに、⑤を断つ「読み」もたらず爽快感や全能感が私たちに必要なときには必要だ。でも、爽快感や全能感を欲するのは、私たちがEケンメイえんめいで強い人間だからではなく、愚鈍で弱い人間だからであるという原因・結果

の流れは忘れない方がいい。(中略)

だから、本書で私が採用するのは「話を簡単にする読み」ではなく、むしろ「話を複雑にする読み」である。

「話を先へ進めること」と「話を簡単にすること」は似ているようで違う。「話を簡単にする」と片づかなかった論件が、「話を複雑にする」ことによつて「先へ進む」ということがある。

例えば、⑥二つの意見が妥協の余地なく対立して合意に至らないときには、「じゃあ、両論併記で」とか「では、継続審議ということだ」というのは、

大人の世界ではめんどろな議論を切り上げるときの方が方便である。どうして、「両論併記」や「継続審議」が問題解決に結びつくのか、そんなのはただ解決を先送りしているだけじゃないか、という反論もあるだろう。だが、それは短見というものである。そういう方はファクターを一つ見落としてたいる。「時間」である。

先ほどの比喩を繰り返すなら、「船首だけが見えて、船尾が見えない」局面においてのみ、非妥協的対立は生じる。

外交政策にしても経済政策にしても、議論が激しく対立するのは、そこに「未来予測」がかかっているからである。(中略)「分からないこと」を入れ込んで議論しているから対立は非妥協的になるのである。だから、「時間」が経って「船尾」が見えてくると、しばしば芳せずして、両論間の合意は成る。

(内田樹『他者と死者 ラカンによるレヴィナス』より。なお、本文には省略等がある。)

\*1 レヴィナスやラカン……エマニュエル・レヴィナス（1906～1995）フランスの哲

学者）とジャック・ラカン（1901～1981）フランスの精神分析学者）のこと。

\*2 一望俯瞰的……ここでは、一目で全体を見通すようにということ。

\*3 フォーマット……形式。構成。

\*4 古代フリギア王ゴルディオス……紀元前八世紀頃建国された、現在のトルコ中部西部にあった王国。『ギリシヤ神話』にもたびたび登場する。ゴルディオスはその初代の王の名。

\*5 アレキサンダー大王……紀元前四世紀、ギリシヤからインドに至る広大な帝国を築いた。

\*6 本書……出典にある『他者と生者 ラカンによるレヴィナス』のこと。本文はこの本の「まえがき」である。

\*7 ファクター……ここでは、必要な要素のこと。

問一 空欄「・」に入る言葉として適当なものを、次のア～オの中から一つ

ずつ選び、それぞれ記号で答えよ。なお、空欄「」は本文中に二箇所ある。

ア むしろ イ たぶん ウ そこで エ しかし オ つまり

問二 傍線①「腑に落ちる」とは、ここではどのような経験だと言われているか。本文中から八字で抜き出せ。

問三 傍線②「そういうふうに」とは、どのような書き方のことを表しているか。本文中の言葉を使って、四十五字以内で説明せよ。

問四 傍線③「このようなスケールの思想家を『別人』になってしまう」について、次の各問いに答えよ。

(1) 「論述の主体」が『別人』になってしまうのはなぜか。その理由を説明した次の文の空欄に合うように、傍線③以前の本文中の言葉を使って十五字以内でまとめよ。

「論述の主体」が、【十五字以内】から。

(2) 「このようなスケールの思想家」の考えを表している一文を本文中から探して、はじめの五字を抜き出せ。ただし、この一文は比喩表現として表されている。

問五 傍線④「私の読みはくずいぶん違う」とあるが、筆者の読みとはどのような読みのことか。本文中から十字程度で抜き出せ。

問六 空欄⑤に入る四字熟語として適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 驚天動地    イ 千載一遇    ウ 快刀乱麻    エ 虎視眈々 たんだん

問七 傍線⑥「二つの意見がく方便である」とあるが、筆者がこのように言うのはなぜか。その理由を説明した次の文の空欄に合うように、本文中の言葉を使って、四十五字以内でまとめよ。

筆者は、「四十五字以内」と考えているから。

問八 次のア～オの文で、本文の内容に合致しているものには○を、合致していないものには×を付けよ。

ア 長年、「私」はレヴィナスやラカンを熱心に読んできたが、その言い合いがよく分からないのは、読み進むにつれて「私」の考えが次々と変わってしまうことが多いからだ。

イ 「話を複雑にする」ことで問題の解決が先送りになるのは、「私」の意図からではなく議論の対立が激しくなるからであり、時が経てば誰もが疲れてくるので、自ずから議論は収束してくるものだ。

ウ 「アレキサンダー大王の剣」的な理解は、私たち人間の弱さから生み

出された一面があり、分かりやすい結論に満足を感じるのだが、この理解からこぼれ落ちるものの豊かさにも心を留めるべきである。

エ スケールの大きな思想家の考えを追ううちに、「私」はわけが分からなくななり、それでも少しでも納得できるところから読み進めようとするのだが、うまくゆくかどうかは分からない。

オ 書き手の知力が足りないと言えない主題が存在するように、多くの学術情報が提供されて初めて偉大な書物の価値が分かるので、長い時間をかけて思考の歷程をたどる作業は欠かせないものとなる。

問九 波線A「フク(す)・B「ヘンボウ」・C「ジュンタク」・D「タク(した)・E「ケンメイ」のカタカナを漢字に直せ。

【三】 次の古文は『堤中納言物語』の「虫めづる姫君」の一節である。【古文】、

【現代語訳】、【鑑賞文】・【二】を読んで、後の問いに答えよ。

【古文】

蝶めづる姫君の住みたまふかたはらに、按察使あさせちの大納言の御むすめ、心にくくなべてならぬさまに、親たちかしづきたまふこと限りなし。

①この姫君の a のたまふこと、「人々の、花、蝶やとめづる X、はかなくあやしけれ。人は、まことあり、本地たづねたるこそ、心ばへをかしけれ」とて、よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、「これが、成らむさまを見む」とて、さまざまなる籠箱かごばこどもに入れさせたまふ。中にも「烏毛虫くまむしの、心深ききましたるこそ心にくけれ」とて、明け暮れ 一 をして、手のうらにそへふせて、まぼりたまふ。

(中略)

親たちは、(中略)「音聞きあやしや。人は、みめをかしきことをこそ好むなれ。『むくつけげなる烏毛虫を興おこずなる』と、世の人の聞かむもいとあやし」と聞きこえたまへば、「苦しからず。よろづのことどもをたづねて、未を見ればこそ、事はゆゆゆゆあれ。いとをさなきことなり。烏毛虫の、蝶とはなるなり」そのさまのなり出づるを、取り出でて見せたまへり。

〔新編日本古典文学全集 17

落窪物語 堤中納言物語〕より。

なお、本文には省略がある。(

【現代語訳】(訳は作問者による)

蝶をかわいがつている姫君の住んでいらつしやる隣りに、按察使の大納言の姫君が住んでいらして、並大抵の姫君など足下に寄れないほどの様子で、両親はこの姫君を大切に養い育てていらつしやる。

この姫君がおつしやることには、「人々が、花よ、蝶よともてはやすのは浅はかで不思議なことです。人には誠実な心があつて、物事の本質を見ることこそ、大切なのです」といって、さまざまの虫の中でも、恐ろしげな虫を採集して、「これが成長する様子を見よう」といって、さまざまの虫かごなどに入れさせなざる。中でも「毛虫は考え深そうな感じをしているのが奥ゆかしい」といって、朝晩、耳に髪をかけて、手のひらの上に乗せてじつと見守つていらつしやる。

(中略)

両親は、(中略)「評判が良くないであろう。人は見た目の美しいことを好むものだ。『気味の悪い毛虫をおもしろがるぞうだ』と、世間の人の噂になるのは良くない」と申し上げなざる」と、「かまわないわ。あらゆることの本質を追究して、結果を見るからこそ、物事の理由や原因がわかるのよ。そんなこととわからないなんて、ほんとうに幼稚です。この毛虫が、蝶になるのです」といって、その様子を取り出してお見せになる。

## 【鑑賞文】

「生命科学」と「生命誌」の違いをどんなふうに捉えようかと悩んでいたとき、哲学専攻のお友達が「虫めづる姫君」を読むようにと勧めてくれました。

②紫式部や清少納言と同じ時代に、京都のお屋敷に暮らしていた大納言のお姫様の話です。どことなく心惹かれるおんなの子で、両親にも可愛がられています。ところでこのお姫様、男の子に虫を採ってこさせて名前を訊いたり、みんなが知らないときには自分で名前をつけたりして面白がっているのです。(中略)

集めた虫は箱に入れて、成長の様子を観察します。女官たちは恐がりですが、両親は困ったことだと思いつつも、この子には③はつきりとした考えがあるのだろうとも思うのでした。

お姫様は「みんなは花やチョウが美しいと可愛がるけれど、それは他愛もないことです。物事の本質を求めてこそ面白さがわかります」とか「毛虫の毛並みには惹きつけられます」と言います。「毛虫は考え深そうな感じがしていいわ」という場面、生命誌研究館でチョウやクモと付き合っている私は手を叩いて喜びたくりますが、ふつうのかたが聞かれたら、やはり変わり者と思われるかもしれません。それにしても、物事の本質を見ることが大切とはつきり言いきるところなど、平安時代でなく、今ここにいてもおかしくないおんなの子です。(中略)

虫の観察には長い髪が邪魔ですので、耳にかけます。物語には「耳はさみ」

と書いてありますが、これは立ち働くときにすることであり、お姫様のなさることではありません。お行儀が悪いと非難されているのです。でも、虫を熱心に見ようとすれば、思わず髪をかきあげてしまうのが自然でしょう。

(中略)

両親は、「世間の人の評判も考えなさい、おかしな虫を可愛がっているなどという噂が広がっては困ります」と忠告しますが、それに対するお姫様の答はこうです。

「苦しからず。よろづのこともをたづねて、末を見ればこそ、事はゆゑあれ。いとをさなきことなり。鳥毛虫の、蝶とはなるなり」(中略) 私たちがDNAを解析しながらチョウを研究している状況とピタリと重なります。

問一 空欄×に入る言葉として適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア ぞ イ なむ ウ や エ こそ

問二 二重傍線 a 「のたまふ」・ b 「ゆゑ」をそれぞれ現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書け。

問三 傍線①「この姫君」とあるが、誰のことか。【古文】の中から抜き出せ。

問四 空欄①に入る言葉として適当なものを【鑑賞文Ⅰ】の中から四字で抜き出せ。

問五 傍線②「紫式部や清少納言」とあるが、それぞれの人物が書いた作品

を次のア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えよ。

ア 竹取物語    イ 土佐日記    ウ 源氏物語

エ 枕草子    オ 徒然草

問六 傍線③「はつきりとした考えがあるのだろう」とあるが、「はつきりした考え」とはどのような考えか。次の空欄に入る言葉として適当なものを【鑑賞文Ⅰ】の中から十字以内で抜き出せ。

【 十字以内 】が大切であるという考え。

【鑑賞文Ⅱ】

ところで「めづる」という言葉は、どういう意味を持っているのでしょうか。

もちろん愛するということですが、ただ、好きとか、可愛く思うということとは少し違うものが見えてきます。あら可愛いと言うときは、やはり見かけが大事でしょう。でも、お姫様は「よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、『これが、成らむさまを見む』とて、さまざまなる籠箱どもに入れさせたまふ」のです。皆が見るところ、恐ろしげなるものです。とくにお姫様がお好きなのは鳥毛虫、つまり、毛虫です。しかも、毛虫は考え深そうで、それに

惹きつけられると言います。

一見恐ろしげだけれど、それを飼ってよく観察すれば、とても魅力的に思えるという、これが「めづる」です。

(中略)

対象をよく観察し考えることによって生まれてくる愛が、「めづる」なのです。私が生命誌に求めたのも、これです。小さな生きものをよく見詰め、研究していくと、生きていくことへの愛が生まれてきます。分析して理解しようというのとは違います。生きものの研究には、解剖や分析が必要です。そこで、動物のいのちを奪う行為として非難されることがあります。もちろん、いい加減に扱ってはいけませんけれど、丁寧に見ていくと、生きものはなんと見事に生きていくのだろうということがわかってきて、いのちを大切に思う気持ちが高まると思っているのが研究です。

(中略)

平安時代に、すでに生命誌を実践しているおんなの子がいたのです。すばらしい！ これを知ってから、「めづる」を生命誌の基本に置くことにしました。

(中略)

日本の物語の流れの中で、このお姫様の位置づけを考える文学研究の立場とは違うかもしれませんが、素直に読むと、世間の常識、周囲の人の意見に流されずに物事の本質を見て、そこから自らの考えを作っていく姿が見えてきますので、私にとってはすてきな「おんなの子」以外の何者でもありません。

この物語の作者もそう思っているのではないかしらと読みながら思うのは、周囲の大人たちが頭ごなしにダメと言っていないからです。両親はお姫様の言い分にも一理あるなと思ひ、可愛がついていますし、侍女の中にもお姫様の肩を持つ人がいます。とくに、年かきの侍女は、若い人をたしなめます。とてもよいバランス感覚に、日本人は本来、こういう多様性を認める性質を持っているのではないのでしょうか。この感覚はこれからの社会にとっても必要なものだと思います。

「めづる」という言葉は魅力的ですし、今から千年近くも前にこのような文化を持っていた私たちは、これを今、さらに育て、世界に発信していきたいものです。この文化を育てたのは、日本の自然にちがいありませんし、それを受けとめて深く考えたのがお姫様、つまり、おんなの子であつたということには、大きな意味があると思います。成長・拡大を求める欧米型、男性型の思考から抜けて、生きることを大切に作る社会作りをしていくとき、先輩として参考にするのは「虫めづる姫君」です。

【鑑賞文Ⅰ・Ⅱ】とも、中村桂子『ふつうのおんなの子』のちから 子どもの本から学んだこと』より。なお、本文の表記は原文のままであり、省略等がある。

問七 次の文章は、二重傍線「成長・拡大を求める欧米型」『虫めづる姫君』です」について、二人の中学生が話している場面である。【1】～【6】の空欄に入る言葉として適当なものを、【鑑賞文Ⅱ】の中からそれぞれ指定の字数で抜き出せ。

A子…二重傍線「成長・拡大を求める欧米型」『虫めづる姫君』です」って書いてあるけど、どうして「生きることを大切に作る社会作り」に「虫めづる姫君」が関係してくるんだろう。

B美…そうだね。どうしてだろう。

A子…そもそも、「虫めづる」の「めづる」ってどんな意味なのかな。

B美…辞書には「愛する」とか「好む」とか載ってるけど、鑑賞文の筆者はそれはちよつと違つて書いてるね。

A子…えつと、ほんとだ。【1 二十四字】って書いてある。

B美…世間の人から見れば【2 八字】である毛虫も、お姫様は、観察してみると【3 五字】などところに魅力を感じると言っているね。

これが【1】なのね。

A子…それで、よく観察をすることで【4 二十字】という感動が生まれてくる。その結果、【5 十二字】が深まるというわけね。

B美…あ、だから結果的に「虫めづる姫君」を参考にすれば、「生きることを大切に作る社会作り」につながるってことなのね。

A子…そうか。わかった気がする。だけど、【6 二字】時代のお姫様の感性が令和の現代にも通じるなんて、すごいね。